

項	重点目標(取組)	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
一人一人の自立に向けた力を伸ばす	きめ細やかな指導、個に応じた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「学ぶ力・生きる力向上支援員」の活用については、授業中・放課後ともに一定の成果が上がっている。特に放課後学習(ボン太モン教室)では、支援員さん自ら生徒に働きかけを行い、学習面以外のサポートもあり、効果的であった。担任との一層の連携が課題である。 「みんなの学習クラブ」の家庭配信2年目。より個に応じた指導の充実に努めた。さらに有効にするためには教員の組織的な働きかけが必要。 夏休みの課題に「みんなの学習クラブ」を一部取り入れたが、組織的な取り組みができなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に、職員研修を実施し、「みんなの学習クラブ」利用について、周知。授業での活用方法や宿題での活用について、教科ごと学年ごとに研修を深める。 夏休みの課題の在り方について、年度当初に各学年・各教科で方針を立て、計画的に「みんなの学習クラブ」を取り入れる工夫を考える。 学ぶ力・生きる力向上支援員との一層の連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後学習は今後も続けてほしい。もっと多くの子どもたちに利用してもらうため、メリットをもっと伝えるべき。 支援員さんをサポートする体制が必要。 生徒が自ら進んで学習しようという気持ちがある工夫を。 放課後学習の利用者が少ないのは残念。なぜ利用しないか生徒に聞くなどし、利用方法の改善を。 「みんなの学習クラブ」で勉強したことが定期テストに反映すると生徒の満足感が出るのかも。 「みんなの学習クラブ」の生徒の利用のしやすさと成果が実感できる仕組みをさらに進めてほしい。 教職員と支援員が協力することで、生徒への支援の幅が広がる。 放課後や長期休業中にコンピュータ室を開放し、自主学習ができる仕組みが作られているのはよい。 参観日の日に保護者向け利用説明会をするなど保護者にも積極的に呼びかけてはどうか。
	確かな学力の育成と分かる授業推進	<ul style="list-style-type: none"> 「ボン太モン教室」については長期休業中を含め、火水木週3日開催した。授業との連動や担任の指導との結びつきなどさらに改善する必要がある。 授業評価アンケートを実施し、分かる授業に向けて各教科担任が生徒の視点を中心に改善に取り組んだ。全体的には昨年度より数字が改善されているが、個々には課題が残っている。 各教室でプロジェクターを利用し、動画やデジタル教科書を活用する授業が増えてきた。有効活用について検証し、すそ野を広げたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究授業を実施し、授業力向上を図り、教職員がお互いに高めあう土壌を大切にする。 引き続き授業評価アンケートを実施し、「力がつく授業」について教職員が自覚・研鑽するデータとして活用する。 ICTの積極的活用や「協同学習」を推進し、わかりやすく、生徒自身が学ぶ意欲が持てる授業を積極的に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業をもっとよくしていくために、先生たちがお互いの授業を見あって、研究する時間を大切にしてほしい。 放課後学習、塾よりまず授業の充実。各学年・教科等での情報交換や研修等を通し、生徒にとって質の高い授業を目指してほしい。 生徒の声として、先生により教え方の差があるとの意見がある。指導力向上を図るとともに、授業中に質問しやすい雰囲気や時間の確保をお願いしたい。 教職員の方のことを生徒はよく見ている。よき手本であってほしい。
	楽しい学校づくり いじめのない学校	<ul style="list-style-type: none"> 一昨年から引き続き、「コミュニケーション能力養成講座」を実施し学級・学年・学校全体の親睦を図った。 各行事にてできるだけ生徒の主体的な活動を取り入れ、達成感や充実感を得ることができるよう工夫した。リーダーが声を出す場面が増え、集団としてしっかり成長している。もっと前面に出す必要がある。 教育相談やアンケートを通じて、生徒の実態の把握に努め、特にいじめやラインの問題について力をいれた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> これまでに引き続き、教育相談やアンケートを通じ生徒の実態把握に努める。生徒の声に耳を傾けることの重要性をこれまで以上に教職員の共通理解としていく。 引き続き、生徒が多く場面活躍し、達成感と自己有用感が持てる場を積極的に作る。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートはとり、本音を言える場を作るのはよいこと。さらに声を拾って、話をするまで高めてほしい。 生徒間、先生と生徒で感じ、学べるコミュニケーションの重要性を意識してほしい。 生徒会の雰囲気がとてもよく、頼もしく感じた。 生徒会を中心に生徒の意見や考えを話し合い、目標に向け自主的に取り組むことをもっと支援しては。
実教職員を磨き、学校の魅力と	校内研修の充実 教員の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議を利用したミニ研修を定期的実施。心肺蘇生法や特別な配慮を要する生徒理解の研修、小中合同研修などを長期休業中などに実施した。 PTA組織の活用、特に学年委員会や運営委員会での意見を、教員にフィードバックすることで指導力向上に取り組んだ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 小中連携の重要性を理解しつつ、教職員の多忙化解消の観点から、短時間でより中身の濃い小中連携について検討する。 職員会議を利用したミニ研修を計画的に実施する。 PTAからの意見や全国的な教育に関する動きを適切に教職員にフィードバックし、指導力の向上につなげたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生と生徒のコミュニケーションをもっと密にすることを意識してほしい。 活気が感じられ、若手・ベテランが協力し合ってバランスの取れた教育活動をしてきている。 PCやプロジェクターを使用した授業など、お互いに学び合い、活用してもらえればよいと思う。 多忙な先生方をフォローできるシステムがいる。職員室の雰囲気が学校の雰囲気になるので、風通しの良い学校であってほしい。 生徒、保護者、先生と違った視点でのアンケートはよかった。対策を考えやすい。
	評価活動に基づくPDCAの確立	<ul style="list-style-type: none"> 各評価アンケートを実施。7月の授業評価、授業公開時の保護者アンケート、12月の全体的な学校評価等を教職員が共有し、次に生かす工夫をしている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> これまで通りアンケートを実施。それを各校務部会や学年会議等で深め、次に生かす対策を考える。 	
特色ある神戸の教育を更に発展させる	人間関係力、コミュニケーション能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 吉本芸人の「かわばたくん」に学期に一回来てもらい、人間関係力・コミュニケーション能力の向上に努めた。また、「プレ親学習」では、地域に住む母親に来ていただいたり、校区内の保育所と積極的に交流を持った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「かわばたくん」については、目的がぼやけてしまった感があるので、原点に戻り取り組みたい。プレ親は地域の協力なくしてはできないが、生徒にとって大変意義のあることなので、早くから日程を設定し、地域に呼びかけたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 大人任せにするのではなく、生徒が何かやろうと行く気持ちが大変大切。 もっと深い取り組みにすることで、生徒会中心で進めてみてはどうか。 「かわばたくん」は打ち合わせの時から生徒も入り、会を充実させてはどうか。 マンネリ化。反抗期の子どもたちの心に届くような講座を取り入れるのもよいかも。 プレ親学習は、学校と地域のコミュニケーションの場という点でもよいと思う。 図書館は定期的にテーマに沿った本の展示などがあり楽しく、足が向く。読書感想文の書き方など実益のある講座があればうれしい。 司書の方が配置され、図書館の掲示や雰囲気が良い方向に変わった。どんどん活用してほしい。
	学校図書館の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校司書が配置され、原則毎日開館している。昼休みを中心に来館者数、貸出数ともに増加。道徳との授業に合わせ、特設コーナーを設置したり、公設図書館から本を取り寄せたりしている。来館者層の拡大と授業での活用が課題である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館司書が配置され、利用者・貸出数は増加した。利用者のすそ野の拡大と授業での図書館の活用など具体的なプランを考えていく。 	
市民が自ら学び子供の育ちを共に支える	家庭や地域との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> HPやメール(ミマモルメ)の活用が家庭とのタイムリーな情報伝達の中心手段として定着した。 地域行事における中学生の積極的な参加・活躍が定着しつつある。地域高齢者宅を定期的に訪問し、古紙回収をする取り組みも始めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> HPは各学年からも情報発信できるよう、態勢を整える。ミマモルメは部活動連絡にも積極的に活用できるよう職員研修を行う。古紙回収は生徒の安全等に配慮しながら、徐々に地域拡大等を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ミマモルメの積極的活用をぜひお願いしたい。 ミマモルメで必要な情報が伝わり助かっている。 HPは内容が充実しているが、もっと宣伝して多くの人に見ていただける工夫が必要。 PTA運営委員会に参加し、学校と保護者がいい関係であることに感激した。生徒は幸せである。 保護者からの意見の重要性を全職員に感じてもらい、一緒に考えていけるPTA会議にしたい。学校からも要望や保護者に向けての質問をしてもらい、よりよい学校になるようにしたい。 地域行事の参加が部活動単位になっていることが多いので、誰もが参加しやすいよう地域でも考えたい。 PTA=保護者代表=保護者全体の意見なので意見について「できません」で一掃せず、まずは考えてほしい。
	PTA活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 月に1度の運営委員会が実質的なPTA学級委員総会となり、多くの提案や討議がなされ、具体的な形で学校運営に反映することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の意見に真摯に耳を傾け、共に生徒のために協力し合う態勢を維持する。 	